

主 題：悲劇の中で持つ信仰

聖書箇所：ハバクク書 3章17-19節

日本に来て、目にすること耳にすることが違っていたり、また食べ物の味にも違いを感じるがありますが、どこにいてもクリスチャンの愛と交わり、そして、神のことばは変わることがありません。日本に来る飛行機の中で興味深いことに気づきました。それは、初めに事故に備えるための注意のビデオが流されますが、周りをみるとそれに注目している人がほとんどいないのです。何度も乗っているが、今までそのようなことに遭遇したことはないと安心して、関心が失せるのでしょうか？私たちの信仰生活にもこれと同じようなことがないのでしょうか？平穏な日々が続くと私たちはそれに慣れてしまいます。そのような中で突然緊急な事態が起こったとき、私たちはどうするのでしょうか？

ハバククはどのような状況の中でも神を信頼することを知っていました。今日の聖書箇所、ハバクク書から、最悪の状況になっても神にのみ信頼することを学んでゆきましょう。

ハバククは神への確信のもとに信頼することができました。1章を見ると、ハバククの生涯に何が起こるのか彼は神から幻を見せられるのです。1, 2節「預言者ハバククが預言した宣告。『主よ。私が助けを求めて叫んでいますのに、あなたはいつまで、聞いてくださらないのですか。私が「暴虐。」とあなたに叫んでいますのに、あなたは救ってくださらないのですか。』」と、いつまで悪をさばかれないのですかとハバククは神に叫んでいます。神は答えます。5, 6節「異邦の民を見、目を留めよ。驚き、驚け。わたしは一つの事をあなたがたの時代にする。それが告げられても、あなたがたは信じまい。見よ。わたしはカルデヤ人を起こす。強暴で激しい国民だ。これは、自分のものでない住まいを占領しようと、地を広く行き巡る。」と、カルデヤ人を起こすと言われます。カルデヤ人は非常に荒々しい民族です。イスラエルを滅ぼし尽くします。ハバククの生涯にそのことが起こるといいます。これは悲劇です。しかし、それでもハバククは神に信頼すると言います。

ハバククのとった行動から、どのように神に信頼するのかを三つの方法を通して学んでゆきます。それによって、私たちが苦難に直面しても神に喜ばれる生き方をして行くためです。

☆ どのように神に信頼するのか

1. 神にのみ信頼をおく 17節

17節「そのとき、いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木は実をみのらせず、オリーブの木も実りがなく、畑は食物を出さない。羊は囲いから絶え、牛は牛舎にいなくなる。」と、これらはイスラエルの民にとって生きる糧をもたらすものです。イスラエルの経済そのものです。それらが何もかもなくなるといいます。食べ物だけでなく、ライフラインのすべて、あるゆるものがなくなってしまう状況です。皆さんにとっての悲劇とは何でしょうか？健康、財産、持ち物、愛する家族、それらを失ってしまうことでしょうか？最も恐るべきことが起こると知ったとき、たとえば、この大阪が突然攻められるとしたら？そのとき私たちはどのようにするのでしょうか？神への不平でしょうか？それとも信頼でしょうか？私たちは神にのみ信頼することができるのでしょうか？

このような状況が今まさにハバククの目の前に起ころうとしていたのです。

2. 神に心からの喜びをもって信頼する 18節

18節「しかし、私は主にあって喜び勇み、私の救いの神にあって喜ぼう。」と、この「喜び」とは偽物の喜びではない「心からの喜び」です。うちに秘めておくことができないような…。ハバククの心からの喜びが表現されています。神をほめたたえようと喜ぶのです。しかし、これは悲劇の状況を喜んでいのではないことに注目しなければなりません。悪い状況を喜ぶようにとは神は言っておられません。ここに「主にあって」とありますが、神が期待されることは「神にあって喜ぶ」ことです。喜びは神のうちにあるからです。「私の救いの神」とは、どのようなことが起こっても、私は罪から救われたのだという事実、これが最善であること、そして、この救いを失うことはないという確信です。これがクリスチャンの喜びであり、ハバククの心からの喜びだったのです。私たちの心の奥底にこの救いの喜びをもつことが教えられています。

3. 神に揺るぐことのない信頼をもつ 19節

たとえば、私たちが初めてスケートリンクに立ったときの状態を考えてみてください。恐れと不安でしっかり立つことができません。このような状態ではなく、しっかりした靴をはいてしっかり地に足をつけた状態、それが揺るぐことのない信頼です。ハバククに力をもたらすのは神です。19節「私の主、神は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。」。「雌鹿」はイスラエルにいる野生の山羊です。イスラエルは石の多い地です。そのような石地、岩地も自由に飛びまわることができます。神は私の足をこの山羊のようにしてくれるのです。どのように最悪の状況の中にあってもです。そのとき、神が私たちに与えてくれる力、知恵が明らかにされるのです。神を知らない人は悲劇の中に転んでしまいます。しかし、神のみことばが私たちに指針と導きを与えてくれるのです。II コリント 12 : 9 「しかし、主は、『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。』と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」とパウロは言います。パウロは苦しみの中でそれを取り除いてくれるようにと三度も神に願いましたが、神の答えは「わたしの力は弱さのうちに完全に現われる」でした。困難の中にも希望があること、これが私たちが伝えてゆくべきことです。本当の喜び、本当の希望、それはクリスチャンが与えられ、持ち続けているものです。そして、世に証するものです。この希望があるから悲劇が起こっても喜びがあるのです。もし、罪の中にいるならこの希望を持つことはできません。罪を悔い改めて神の方を向くことです。神は罪を赦し永遠のいのちをくださるのです。そして、世の何ものも与えることのできない希望をもつのです。どのような緊急な状況が襲ってきたとしてもです。

これはハバククだからできたことではありません。ハバククが神の前にとった行動は私たちもまた同じようにできることなのです。悲劇を恐れることなく神にあって喜ぶことができます。それがクリスチャンです。